

あれこれふあ



ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

2025 年 9・10 月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 Tel. 047-320-3346

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
9月	783	461	501	3	8	1,756	1,295	52	207	126	125	527	4,088
10月	736	461	468	8	5	1,678	704	66	152	224	114	452	3,390
累計	4,993	3,348	3,182	502	38	12,063	7,275	372	1,231	1,205	916	3,274	26,336

🔍 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

I/C1 市川市役所第 2 庁舎とニッケコルトンプラザ通りが交わる三角地帯は以前何だったか。

『ゼンリン住宅地図千葉県市川市 1 市川 八幡 2024』p.122 より現在はガソリンスタンドだが、住宅地図をさかのぼっていくと『市川市住宅地図 [ゼンリン住宅地図 市川市] 1970』99 面では「本田商事南八幡給油所建築中」。これより以前の『市川市動態図鑑 1966 (昭和 41) 年版』p.127 51 図では道路はまだなく、この辺りには田の地図記号に下線がある地図記号が掲載されている。『地図の記号と地図読み練習帳 第 2 版』(大沼一雄/著 東洋書店 2006) p.36 より該当の地図記号は戦前の水田の記号となっており、以前は水田だったことが伺える。

I/H8 昭和 30 年代の市川市議会議員選挙に出た人、選挙結果について知りたい。

地方公共団体の議会の議員の任期は 4 年なので、昭和 30 年代では、昭和 30 年、34 年、38 年が該当。いずれも「市川市報」に候補者及び当選人の結果の掲載がある。昭和 30 年は「市川市報 第 160 号 (昭和 30 年 5 月 15 日)」(『市川市公報 159 号-170 号 1955 年度』所収) に「選挙期日 昭和 30 年 4 月 30 日、選挙すべき議員の定数 36 名、候補者 61 名の氏名・本籍・生年月日・職業など」の掲載あり。当選人の結果は「市川市報 第 161 号 (昭和 30 年 6 月 15 日)」の目次にあるが切り取りがあり閲覧不能。ただし、「昭和 30 年 5 月市川市臨時市議会会議録 第一号」(『市川市議会定例会会議録 昭和 30 年 3 月②・5 月』所収) に出席議員 36 名の氏名があり確認できる。昭和 34 年は「市川市報 第 208 号 (昭和 34 年 5 月 20 日)」(『市川市公報 207 号-217 号 1959 年度』所収) に「選挙の期日 昭和 34 年 4 月 30 日、選挙すべき議員の定数 36 人、候補者 66 人、当選人 36 人」、昭和 38 年は「市川市報 第 256 号 (昭和 38 年 5 月 20 日)」(『市川市公報 255 号-266 号 1963 年度』所収) に、「選挙期日 昭和 38 年 4 月 30 日選挙すべき議員の定数 40 人、候補者 46 人、当選人 40 人」にそれぞれ掲載あり。

289.1 近藤勇の養父「近藤周助」の経歴、生い立ち、育ち等がわかる資料を知りたい。

『近藤勇と新選組 続幕末を駆け抜けた男たち』(今川徳三/著 教育書籍 1989) p.17 に「勇の養父となる近藤周助だが、周助は武州多摩郡三ツ目 (東京都町田市小山町) の名主、島崎休右衛門の五男として、寛政四年(1792)に生まれた。幼名関五郎、のちに周平、周助と変え、名を邦武、隠居してから周斎と号した。戸吹の近藤三助道場の門を叩いたのは、文化八年(1811)、二十歳の時といわれ、一説に周助は、饅頭の行商をして歩いたという。(後略)」と記載あり。その後の経歴として p.18 に「周助は三代目を継承すると、生まれ在所の小山村に引っ込んでしまった。江戸に出る決意をしたのは、十年後の天保十年(1839)、四十八歳の時であった。」と

ある。育ちについては p.17「名主の倅といっても、五男ともなると、うとんじられ、やむなく饅頭の行商をやったのであろう。」という 1 文がある程度で詳細には書かれてはいない。人物を表すものとして p.18～19 に「もともと周助は剣客らしからぬ好人物であったそうで、稽古の謝礼も米・麦・野菜で満足したといわれている。試衛館を勇に譲ったあとは気楽な隠居暮らしで、勇から小遣い金をもらうと、講談の寄席へ行き、帰りにうなぎの蒲焼を食べるのが、唯一の楽しみであった。」と記されている。『新選組銘々伝 第 4 巻』（新人物往来社 2003）p.49～50 には、周助が武術天然理心流を継承する経緯や道場開設についての記載があるが、「周助のこの頃の史料はほとんど残っていない。」との記載もあり。

921.4 漢詩の「青楓江上秋帆遠」という一節の意味を知りたい

『漢詩大観（鳳出版 1974）の索引で「青楓」の語句で探すが、盧綸の「送王李二少府貶潭峡」という詩と、高適の「送李少府貶峡中王少府貶長沙」という詩にいずれも“青楓江上秋天遠”という一節があった。どちらも“帆”ではなく“天”。『唐詩選 下』（高木正一／著 朝日新聞社 1996）p.191～193、『対訳唐詩三百首 下 律詩・絶句篇』（江口孝夫／[訳]著 勉誠出版 2008）p.133～135 に解説とともに記載があるが、いずれも高適で“天”。インターネットで検索したところ、中国語のサイトで、高適の「送李少府貶峡中王少府貶長沙」の詩として“天”ではなく“帆”で書かれているものがあった。図書館所蔵の中国語資料『中國名著選譯叢書 [中国語] 53 高適・岑參詩』（高適，岑參／著 錦繡出版 1992）を確認したが、該当の詩の所収なし。

他にもこんな質問ありました（クイック・レファレンスから）

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
175	菊紋のある神社について知りたい⇒『神紋 神社の紋章』（丹羽基二／著 秋田書店 1974）p.68～72 に菊紋の説明と菊紋使用神社一覧あり。改題の『神紋総覧』（丹羽基二／著 講談社 2016 講談社学術文庫）を紹介した。	
304	小田実の著作で終戦後の事を書いて雑誌に掲載された本を見たい⇒『現代日本文学総覧シリーズ 4 第 1 巻 個人全集・内容総覧』（日外アソシエーツ 1984）の『小田実全仕事』からあたりをつけ、p.785『小田実全仕事 8』の「難死の思想」と推測。国立国会図書館デジタルコレクションにて内容確認。p.13～31 が該当。また、p.406 より初出は『展望 65 年 1 月号』（筑摩書房）。	
380.8	『柳田國男全集』全 35 巻 別巻 4 巻（別巻 3・4 巻未刊）（筑摩書房 1997～2024）の何巻に「クシャミのこと」が掲載されているか⇒未完の別巻 3 巻が総索引の予定。『個人著作集内容総覧 2002-2006 下 社会・科学・芸術・文学』（日外アソシエーツ 2007）に同全集の掲載があるので、論題索引の p.585 より「クシャミのこと（孫たちへの話）」は第 20 巻 p.426～434。	
768.5	女浄瑠璃についてわかる本はないか⇒「女浄瑠璃」「女義太夫」ではヒットせず、「娘義太夫」で検索し、『江戸東京娘義太夫の歴史』（水野悠子／著 法政大学出版局 2003）、『知られざる芸能史娘義太夫 スキャンダルと文化のあいだ』（水野悠子／著 中央公論社 1998）を紹介。	
768.9	詩吟で使う「春簾雨窓」の詩の解説を知りたい⇒『近代式吟詠名詩集 2』（菅原雪山／著 有信堂高文社 1979）p.30 に「和春簾雨窓（しゅんれんうそうにわす）」（頼鴨厓）に掲載あり。	
813.4	「盤楽遊嬉」という四字熟語の意味と出典を知りたい⇒『新明解四字熟語辞典 第 2 版』（三省堂 2013）p.543 に意味はあるが、出典は掲載なし。用例として、福沢諭吉・文明論之概略に記載されていることが分かった。『文明論之概略』（福沢諭吉／著 岩波書店 1995）p.302 所収。	
913.6	『天国での暮らし方』（今江祥智、宇野亜喜良／著 BL 出版）を読みたい⇒『薔薇をさがして…』（今江祥智／文、宇野亜喜良／画 BL 出版 2006）の表紙裏カバーに「物語絵本三部作」として『オリーブの小道』『薔薇をさがして…』『天国での暮らし方』（2007 年発行予定）とあったが、BL 出版に確認したところ、現在のところ出版予定はないとのことだった。	
949.7	紙芝居『お月さまいくつ』（アンデルセン／原作、稲庭桂子／脚本、[岩崎ちひろ／画] 童心社 1980）の原作を読みたい⇒紙芝居ケース裏面に「この紙芝居の原話は、（略）『絵のない絵本』の中の＜第二十二夜＞の物語にあります。」とあり、『絵のない絵本 改訂』（アンデルセン／著、川崎芳隆／訳 角川書店 2003 角川文庫）p.85～87 所収。	
P	童心社から定期刊行されている紙芝居の付録「かみしばいニュース」で、とよたかずひ氏が書いたものがあれば見たい⇒国立国会図書館サーチではヒットせず。出版社に問い合わせたが回答得られず。国際子ども図書館を紹介。	